

授業科目	経済学		単位数	2	必修		前期		達成の 検 点 （ でき る 5 4 3 2 1 でき ない ）
一般科目	○	専門科目	選必	○	選択		後期		
受講学生	学科	全学科		学年	5年		通年	○	
担当教員	学科	一般教科		氏名	平林一隆				
授業の 目標概要	複雑な経済現象の運動原理を学び、経済関係の本質を理解する。同時に社会科学的事象のとらえ方・考え方を学ぶことで、自然科学との相違点および共通点を考え、科学全般に通じる科学的思考の方法論を理解する。								
対応する本校の教育目標	(B-1)(F-1)								
履修上の 留意点	教科書は使用しない。講義形式なので、各自講義ノートをしっかり作成すること。関連事項について、参考文献を参照するよう心がけること。								
日程	授業項目			評価内容					
前期	第1週	1. 経済学の対象と方法		経済活動の定義を理解できる					
	第2週	2. 経済史と経済学説		経済制度の歴史の概観がわかる					
	第3週	①資本主義以前の経済史		資本主義経済の成立の条件と、他の経済制度とは異なる特徴がわかる					
	第4週	②資本主義の成立と特徴							
	第5週	③資本主義の発達史							
	第6週	④経済学説の歴史							
	第7週			商品・貨幣・市場・資本などの資本主義経済を構成する基礎的概念を理解できる					
	第8週			資本主義経済の発達史の概要と、発展過程で生じた諸問題がわかる					
	第9週			主な経済学説の概要がわかる					
	第10週								
中期	第11週	3. 市場経済の原理		ミクロ経済学の基礎となる消費者行動・生産者行動の原理が理解できる					
	第12週	①消費者行動の原理		ミクロ経済学が想定する市場均衡と、その合理性の概要がわかる					
	第13週	②生産者行動の原理							
	第14週	③市場均衡と再生産							
	第15週			達成度の点検					
後期	第1週	4. 経済成長の原理		労働価値説の概要・価値形態・貨幣の生成などがわかる					
	第2週	①資本蓄積および拡大再生産の原理		資本の運動・労働力商品・剰余価値生産の原理などを理解できる					
	第3週	②蓄積と市場の変化							
	第4週	③産業循環の諸理論							
	第5週			生産過程の変化と、経済成長および資本蓄積との関連を理解できる					
	第6週			産業循環の発生原理についての主な理論を理解できる					
	第7週								
	第8週								
	第9週								
	第10週								
中期	第11週	5. 経済理論と経済政策		代表的な経済政策の基礎となる理論を理解し、理論と政策の関係がわかる					
	第12週	①経済政策の類型		代表的な経済政策の意義と限界がわかる					
	第13週	②政策の基礎理論							
	第14週	③諸経済政策の意義と限界							
	第15週			達成度の点検					
期末試験の回数 (2回)									
授業時間数 (50時間)									
評価方法 評価基準	試験結果(100%)で評価する。詳細は第1回の授業で告知する。 初歩的な経済学に関する知識、基本的な経済学説の理解、人類社会における経済成長の意味を広く考察する程度を評価する。 総合成績 60点以上を単位修得とする。								
関連科目	地理、歴史、政治・経済、倫理								
	書名			著者名		発行所		定価	
参考文献	諸国民の富			A・スミス		岩波書店 他		書店で表示	
参考文献	雇用,利子および貨幣の一般理論			ケインズ		東洋経済 他		〃	
参考文献	資本論			マルクス		大月書店 他		〃	
オフィスアワー (教員在室時間)				授業時に通知する					